美智子さま80

8月15日へのご覚悟を胸に…

「今日だけは皇后と呼ばないで」

戦後70年の〝慰霊の旅〟が続く中、天皇皇后両陛下のご体調が心配されている。しかし、両陛下は、ご静養中の那須で〝お忍びデート〟に出かけられていた――。

■

「学校が夏休みに入った最初の日曜日に家族3人で『那須どうぶつ王国』に遊びに行ったのですが、突然、歓声や拍手の音が聞こえてきました。何かと思って人だかりに近寄ってみると、その中心に天皇陛下と美智子さまがいらっしゃったのでビックリです!

しかも、美智子さまが『どちらから?』『楽しんでくださいね』と来園者に気軽に声をかけてくださっていて――。小学3年生の息子にも、いい思い出になったと思います」(東京都在住の30代の主婦)

7月19日、天皇皇后両陛下が那須どうぶつ王国を訪れ、1時間半ほど見学された。

皇室担当記者が語る。

「両陛下は、7月の16~21日に〝ご静養〟ということで、那須御用邸に行かれました。しかし初日の16日は、東日本大震災の被災地・福島県を訪れ、放射能汚染の風評被害に苦しむ桃農家の方などを励まされました。

このところの〝移動距離〟を考えると、美智子さまのご体調を心配する声も多く……」

今年、戦後70年という大きな節目を迎えるにあたり、昨年6月の対馬丸犠牲者慰霊碑(那覇市)へのご供花を皮切りに〝慰霊の旅〟が続く両陛下。昨年10月には長崎市の平和公園、同12月は広島市の原爆死没者慰霊碑、今年に入ってからも日本軍約1万人が戦死したパラオ・ペリリュー島を訪問されている。

その後、「東京都慰霊堂」や「戦没・殉職船員追悼式」にも足を運ばれた――。

「両陛下ともに80歳を超えるご高齢です。しかも美智子さまはお膝が悪い。毎年、夏の前に体調を崩されることが多いという印象もあります。

ですから、動物園にお出ましになったのは意外でした。御用邸でゆっくりされるのかと思いきや、数日前に〝2人で行きたい〟と希望されたそうです」(前出の皇室担当記者)

そんな両陛下の那須どうぶつ王国でのご様子を、当日会場にいた女性が教えてくれた。

「相合傘で腕組みして歩くお2人を拝見して、〝羨ましい〟と思っちゃいました(笑)。『カピバラの森』には、見学するための踏み台があるのですが、そこでは陛下が先に台に上がられ、美智子さまのお体をいたわるように手を引きエスコートされていて……。

カピバラの親子を並んでのぞき込まれるお姿は、私にとっては、まさに〝理想のカップル〟でした!」

両陛下はそのほか、4月にオープンした展示施設「保全の森」をご覧になったそうだ。

7月19日(日)、「那須どうぶつ王国」を初めてご訪問された両陛下

「恋人の聖地サテライト」には幸せを呼ぶ鳥・シロフクロウの像がある

ね』とおっしゃったそうです。

担当者がスマートフォンに保存していた神戸どうぶつ王国の赤ちゃんの写真をお見せすると、陛下と顔を寄せ合い、目を細めてご覧になったとか」

「保全の森」では、日本で絶滅にひんしている野生動物の、ツシマヤマネコやニホンライチョウらの「近縁種」が飼育されている。ここで得た技術を、日本の固有種の飼育・繁殖に役立てようというものだ。

「陛下はイリオモテヤマネコなど、日本固有の絶滅危惧種にもお詳しかったそうです」

美智子さまは、よくご家族の話をされて

「保全の森」の先には、見晴らしのよい「恋人の聖地サテライト」(写真上)がある。そこは訪れたカップルの多くが〝幸せになれる〟と記念撮影をする場所だ――。

「人気のデートスポットのエピソードを耳にして、両陛下はその〝記念写真〟に興味を持たれたご様子でした。

ただ当日は雨で足元が悪く、時間も限られていたので…」

次々に登場するかわいらしい動物たちのおかげか、美智子さまも、いつになく〝お話好き〟に――。

「両陛下のお話の中に、何度か、皇太子さまと秋篠宮さまのお名前が出てきたそうなんです。天皇ご一家が、とても仲のよいご家族でいらっしゃることが伝わってきました。

眼下に、いつも皇太子ご一家がご利用になるレストランがあったのですが、そのことをお伝えすると、美智子さまは『ああ、あちらがそうなんですね』と、ご存じだったそうです」

皇室ジャーナリストの松崎敏弥さんが、この美智子さまの「休日の過ごし方」について、分析する。

「この〝王国〟は那須御用邸のそば。毎夏のように、皇太子ご一家がいらしていますし、秋篠宮さまと眞子さまも行かれています。おそらく、新しくオープンした保全の森やコアリクイの〝スプーン芸〟は、愛子さまや悠仁さまへのよい土産話となったことでしょう。

そう、美智子さまは〝皇后として〟ではなく、妻、母、祖母として、この場所を楽しまれたのだと思います。動物たちとふれあう癒しの時間、そして美智子さまにとって何よりのエネルギー源である、『家族の絆』を再チャージできたという意味でも、貴重な時間だったのではないでしょうか」

この翌日、両陛下は元気なお姿で那須町の千振(ちふり)開拓地を訪問されている。

宮内庁関係者が話す。

「この開拓地へは〝戦後60年〟のときに秋篠宮さまと眞子さまといらして以来、10年ぶりのご訪問です。戦後に旧満州から引き揚げてきて、荒れ地を一から開墾した方々と懇談し、苦労をねぎらわれました。6月にはパラオから入植した人々が開拓した宮城県蔵王町の北原尾地区にもお出かけになっています。

そのほか、軽井沢の大日向地区の開拓地訪問も検討される可能性があります」

前出の松崎さんが言う。

「今年の8月15日は、70回目の終戦記念日。全国戦没者追悼式に臨席される予定です。

安全保障関連法案の強行採決で〝不安〟が渦巻いているいまこそ、両陛下の平和への思いが込められたお言葉に、全国民が注目しています!」

慰霊の旅、ねぎらいの旅、風化させない旅――。天皇陛下と美智子さまの旅は、終わらない。

「保全の森」では日本の絶滅危惧種の保護につなげるため、近縁種を飼育している

ツシマヤマネコの近縁種・アムールヤマネコ

自分でスプーンをもって餌を食べるミナミコアリクイ

ニホンライチョウの近縁種・スバールバルライチョウ

秋篠宮家でも飼われていたというカピバラ

ここでの一番人気は、ミナミコアリクイの〝お食事〟が見られる「ハッピースプーンタイム」。コアリクイが自分でスプーンを持ってアボカドを食べるというもの。

那須どうぶつ王国のスタッフの1人が言う。

「器用にスプーンを操りながら餌を食べるコアリクイを前に、美智子さまは、まるで子供のような目をされて、『非常に愛らしいですね。赤ちゃんはもっとかわいいのでしょうね』と」

毎夏のように「那須どうぶつ王国」を訪問されている愛子さま(写真は'12年8月)